

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 東海財務局長

【提出日】 2019年8月6日

【四半期会計期間】 第87期第1四半期(自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)

【会社名】 名鉄運輸株式会社

【英訳名】 Meitetsu Transportation Co.,Ltd.

【代表者の役職氏名】 取締役社長 内田 瓦

【本店の所在の場所】 名古屋市東区葵二丁目12番8号

【電話番号】 (052)935-5721(代表)

【事務連絡者氏名】 財務部長 宮武 積

【最寄りの連絡場所】 名古屋市東区葵二丁目12番8号

【電話番号】 (052)935-5721(代表)

【事務連絡者氏名】 財務部長 宮武 積

【縦覧に供する場所】 株式会社名古屋証券取引所
(名古屋市中区栄三丁目8番20号)

(注)当第1四半期連結会計期間より、日付の表示を和暦から西暦に変更しております。

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第86期 第1四半期 連結累計期間	第87期 第1四半期 連結累計期間	第86期
会計期間	自 2018年4月1日 至 2018年6月30日	自 2019年4月1日 至 2019年6月30日	自 2018年4月1日 至 2019年3月31日
売上高 (百万円)	28,862	28,912	115,924
経常利益 (百万円)	1,494	1,337	5,023
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (百万円)	970	867	2,928
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	1,035	858	2,927
純資産額 (百万円)	33,451	35,870	35,343
総資産額 (百万円)	96,653	97,173	94,332
1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	149.64	133.86	451.68
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益 (円)			
自己資本比率 (%)	33.52	35.75	36.29

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しております。
 2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
 3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容に重要な変更はありません。また、主要な関係会社についても異動はありません。

なお、当第1四半期連結会計期間より事業セグメントを単一セグメントに変更しております。詳細は「第4 経理の状況 1 四半期連結財務諸表 注記事項(セグメント情報等)」に記載のとおりであります。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在しておりません。

2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 経営成績等の状況の概要

当第1四半期連結累計期間における当社グループ(当社、連結子会社及び持分法適用会社)の財政状態及び経営成績の状況の概要は次のとおりであります。

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

なお、当第1四半期連結会計期間より、当社グループの事業セグメントを単一セグメントに変更したため、セグメント別の記載を省略しております。

財政状態及び経営成績の状況

(財政状態)

当第1四半期連結会計期間末における資産合計は、前連結会計年度末に比べ2,840百万円増加して97,173百万円となりました。流動資産は同11百万円増加して19,433百万円、固定資産は同2,829百万円増加して77,740百万円となりました。

流動資産増加の主な要因は、その他流動資産が245百万円増加したことなどであります。固定資産増加の主な要因は、有形固定資産が2,566百万円増加したことなどであります。

負債合計は、前連結会計年度末に比べ2,313百万円増加して61,303百万円となりました。流動負債は同579百万円増加して34,292百万円、固定負債は同1,734百万円増加して27,011百万円となりました。

リース債務を含む有利子負債は、前連結会計年度末に比べ1,407百万円増加して26,402百万円となりました。

純資産合計は、前連結会計年度末に比べ527百万円増加して35,870百万円となりました。これは、主として利益剰余金が543百万円増加したことなどによります。

この結果、自己資本比率は、前連結会計年度末の36.29%から35.75%となりました。

(経営成績)

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善が続き、個人消費、設備投資など国内需要は一定の底堅さを維持しました。一方、原材料費や人件費の上昇による企業収益の圧迫や、世界経済の減速に伴う輸出の減少から、先行きは不透明な状況で推移いたしました。

物流業界におきましては、国内貨物の輸送需要は堅調であり、運賃適正化が進み增收傾向にあるものの、人手不足の深刻化によるドライバー確保のための人件費の増加や、委託費の高騰、不安定な燃料価格など、依然として、厳しい経営環境となりました。

このような状況のなか、当社グループは、現中期経営計画の基本方針「安心と信頼のこぐま品質を提供する人材力・輸送サービス基盤を強化し、成長の礎とする」を中心とした各施策を推進し、積極的な営業活動と効率経営に努めました。

貨物運送関連では、混載事業を中心に、グループ全社で取扱量の確保に努めるとともに、適正運賃改定交渉に継続して取り組み、前年同期並みの収入を確保いたしました。具体的な施策として、営業面では、東京営業部を中心として、グループ全体のリソースを活用した提案による新規荷主獲得を進め、既存荷主に対しては、運送約款改正に合わせ、輸送コストに応じた適正な運賃への改定と作業条件改善による集配業務の効率化を目指し交渉を行い、利益を追及した営業活動を行いました。また、営業支援システム(SFA)を活用し、営業情報の迅速な集約化、共有化を図りました。業務面では、日本通運株式会社との連携を一層強化し、経営資源の有効活用及び業務効率化を引き続き図りました。また、輸送を外部委託からグループ内に取り込むことで運送委託費の増加を抑えることに努めました。

流通倉庫関連では、6月に営業推進部を新設するなど、収入確保に向けた積極的な営業活動に注力したことにより、飲料メーカー及び日用品メーカーなど主要顧客の売上が堅調に推移し前期を上回りました。

以上の結果、当社グループの当第1四半期連結累計期間における業績は、売上高は前年同期比0.2%増の28,912百万円となったものの、人件費と償却費の増加により、営業利益は前年同期比11.2%減の1,276百万円、経常利益は前年同期比10.5%減の1,337百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益については、10.6%減の867百万円となりました。

3 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	26,037,000
計	26,037,000

【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間 末現在発行数(株) (2019年6月30日)	提出日現在 発行数(株) (2019年8月6日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	6,509,301	6,509,301	名古屋証券取引所 (市場第二部)	単元株式数は100株 であります。
計	6,509,301	6,509,301		

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減額 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2019年4月1日～ 2019年6月30日		6,509		2,065		4,497

(5) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(2019年3月31日)に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

2019年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 26,000		
完全議決権株式(その他)	普通株式 6,465,100	64,651	
単元未満株式	普通株式 18,201		
発行済株式総数	6,509,301		
総株主の議決権		64,651	

(注) 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社保有の自己株式89株が含まれております。

【自己株式等】

2019年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 名鉄運輸株式会社	名古屋市東区葵二丁目12 番8号	26,000		26,000	0.39
計		26,000		26,000	0.39

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間において役員の異動はありません。

第4 【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間(2019年4月1日から2019年6月30日まで)及び第1四半期連結累計期間(2019年4月1日から2019年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2019年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	413	385
受取手形及び営業未収入金	1 16,453	1 16,217
電子記録債権	1 1,289	1 1,358
商品及び製品	2	3
仕掛品	45	8
貯蔵品	210	206
その他	1,014	1,260
貸倒引当金	7	6
流動資産合計	19,422	19,433
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	37,413	37,451
減価償却累計額	25,784	26,019
建物及び構築物(純額)	11,628	11,431
機械装置及び運搬具	39,809	40,538
減価償却累計額	23,102	23,353
機械装置及び運搬具(純額)	16,706	17,184
土地	36,105	38,090
リース資産	988	985
減価償却累計額	702	730
リース資産(純額)	285	254
建設仮勘定	147	366
その他	2,736	2,917
減価償却累計額	2,131	2,200
その他(純額)	605	716
有形固定資産合計	65,478	68,045
無形固定資産		
ソフトウエア	1,089	979
その他	373	369
無形固定資産合計	1,462	1,349
投資その他の資産		
投資有価証券	2,373	2,292
長期貸付金	73	68
繰延税金資産	3,032	3,358
その他	2,566	2,701
貸倒引当金	75	75
投資その他の資産合計	7,969	8,346
固定資産合計	74,910	77,740
資産合計	94,332	97,173

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2019年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び営業未払金	1 7,614	1 7,450
電子記録債務	1 4,205	1 4,282
短期借入金	7,905	7,745
1年内返済予定の長期借入金	3,784	3,591
リース債務	120	113
未払法人税等	991	781
賞与引当金	521	102
その他	8,569	10,224
流動負債合計	33,712	34,292
固定負債		
長期借入金	13,031	14,824
リース債務	152	127
繰延税金負債	251	243
役員退職慰労引当金	224	214
退職給付に係る負債	8,529	8,508
資産除去債務	700	703
再評価に係る繰延税金負債	2,035	2,035
その他	351	354
固定負債合計	25,276	27,011
負債合計	58,989	61,303
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,065	2,065
資本剰余金	6,034	6,034
利益剰余金	22,625	23,169
自己株式	29	29
株主資本合計	30,697	31,240
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	778	718
繰延ヘッジ損益	2	0
土地再評価差額金	3,231	3,231
退職給付に係る調整累計額	478	451
その他の包括利益累計額合計	3,534	3,499
非支配株主持分	1,111	1,130
純資産合計	35,343	35,870
負債純資産合計	94,332	97,173

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

	(単位：百万円)	
	前第1四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)
売上高	28,862	28,912
売上原価	26,080	26,264
売上総利益	2,781	2,647
販売費及び一般管理費		
人件費	718	730
施設使用料	120	114
その他	505	526
販売費及び一般管理費合計	1,344	1,371
営業利益	1,436	1,276
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	43	43
持分法による投資利益	0	4
受取手数料	11	10
その他	22	26
営業外収益合計	79	86
営業外費用		
支払利息	19	21
その他	1	3
営業外費用合計	21	24
経常利益	1,494	1,337
特別利益		
固定資産売却益	57	47
資産除去債務戻入益	-	12
特別利益合計	57	60
特別損失		
固定資産処分損	4	11
特別損失合計	4	11
税金等調整前四半期純利益	1,546	1,387
法人税、住民税及び事業税	773	814
法人税等調整額	215	320
法人税等合計	558	493
四半期純利益	988	893
非支配株主に帰属する四半期純利益	18	25
親会社株主に帰属する四半期純利益	970	867

【四半期連結包括利益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)
四半期純利益	988	893
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	16	61
繰延ヘッジ損益	0	1
退職給付に係る調整額	29	27
その他の包括利益合計	46	35
四半期包括利益	1,035	858
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,015	833
非支配株主に係る四半期包括利益	19	24

【注記事項】

(継続企業の前提に関する事項)

該当事項はありません。

(四半期連結貸借対照表関係)

1 四半期連結会計期間末日満期手形等の会計処理については、満期日に決済が行われたものとして処理しております。なお、当第1四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形等を満期日に決済が行われたものとして処理しております。

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2019年6月30日)
受取手形	191百万円	173百万円
支払手形	61 " "	46 " "
電子記録債権	86 " "	66 " "
電子記録債務	7 " "	3 " "

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費（無形固定資産に係る償却費を含む。）は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)
減価償却費	1,118百万円	1,200百万円

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2018年6月26日 定時株主総会	普通株式	259	40.00	2018年3月31日	2018年6月27日	利益剰余金

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

株主資本の金額は、前連結会計年度末日と比較して著しい変動がありません。

当第1四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2019年6月25日 定時株主総会	普通株式	324	50.00	2019年3月31日	2019年6月26日	利益剰余金

(注) 1株当たり配当額には特別配当5円が含まれております。

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

株主資本の金額は、前連結会計年度末日と比較して著しい変動がありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	物流関連事業	その他事業 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 3
売上高					
外部顧客への売上高	28,615	247	28,862		28,862
セグメント間の内部 売上高又は振替高	2	29	31	31	
計	28,617	276	28,893	31	28,862
セグメント利益	2,681	102	2,784	3	2,781

(注) 1. 「その他事業」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産賃貸事業、広告代理事業、設備工事事業を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額は、セグメント間取引消去であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の売上総利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれんの発生益)

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)

当社グループは、「物流関連事業」の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(報告セグメントの変更等に関する事項)

前連結会計年度において、当社グループの事業セグメントは「物流関連事業」と「その他事業」でありましたが、当第1四半期連結会計期間より「物流関連事業」のみの単一セグメントに変更しております。

これは、当社グループの情報、施策を一元的に管理するために、事業展開、経営資源の配分、経営管理体制の実態等の観点から事業セグメントについて改めて検討した結果、事業セグメントは単一セグメントが適切であると判断したことによるものであります。

(1 株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第1四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)
1株当たり四半期純利益	149円64銭	133円86銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益(百万円)	970	867
普通株主に帰属しない金額(百万円)		
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益(百万円)	970	867
普通株式の期中平均株式数(千株)	6,483	6,483

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2019年8月2日

名鉄運輸株式会社
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員 公認会計士 鈴木 賢次 印
業務執行社員

指定有限責任社員 公認会計士 小菅 丈晴 印
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている名鉄運輸株式会社の2019年4月1日から2020年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（2019年4月1日から2019年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（2019年4月1日から2019年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、名鉄運輸株式会社及び連結子会社の2019年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。